

# 益子町ランドスケープ計画推進委員会

## 令和4年度 第2回会議 会議録

1、日時：令和5年3月30日（木） 10：00～12：00

2、場所：益子町役場 203会議室

### 3、出席者

広田 茂十郎	町長
加藤 義勝	委員長
鈴木 信義	副委員長
大岡 周久	委員
小玉 貴浩	委員
藤原 愛	委員

#### (事務局)

産業建設部長	池田 浩之
建設課長	鮎沢 義則
建設課	矢島 剛
同上	小林 大輝

ランドスケープむら	徳永 哲
芝浦工業大学准教授	小埜 芳秀

### 4、議題

- (1) 令和4年度の益子町ランドスケープワークショップの実施状況について
- (2) 令和5年度の益子町ランドスケープワークショップの実施予定について
- (3) 意見交換

## 5、議事概要

### 1 開会

### 2 あいさつ

#### 【町長】

皆さんこんにちは。本日は年度末の大変お忙しい中、益子町ランドスケープ計画推進会議にご出席を賜り誠にありがとうございます。

景観10年、風景100年、風土1000年という言葉がある。益子町は、多くの人々が訪れる場所になっているが、その大きな理由にこの「風土」がある。益子町の風土が持つ独特の魅力がある。益子には里山があつて、自然があつて、その中に焼き物、農業などがある。これらは今まで先祖たちが脈々と培ってきた中でできた風土だと思う。この素晴らしい風土を、次の世代に引き継いでいくのが我々の役目である。

委員の皆様には、それぞれの分野で培われた豊富な経験と知識に基づき、忌憚のないご意見を賜りたい。本日はどうぞよろしく願いいたします。

#### 【加藤委員長】

おはようございます。お忙しいところありがとうございます。

これから令和4年度の実施状況の報告と、令和5年度の実施予定について、事務局の方から説明いただく。その後、意見交換等をお願いしたい。

ランドスケープに関連して環境の変化の問題が、いろいろ出てきている。何とか美しい素晴らしい益子町にしていくために、ご協力いただきたい。

### 3 会議事項

#### (1) 令和4年度の益子町ランドスケープワークショップの実施状況

#### 【徳永】

令和4年度の益子町ランドスケープワークショップの実施状況を説明する。

まず、ワークショップの目的は、次の3つである。

- ・ 地域における課題の共有
- ・ 参加者同士の交流

・持続的な（環境管理）活動と必要な整備の促進

・お手元の資料に、今年度行った3地区のワークショップニュースがある。3地区とは、益子西（星の宮）地区、生田目地区、円道寺池周辺地区のことである。それぞれ3回ずつ行ったワークショップの記録である。

各地区で展開したワークショップの第1回目に、前年度までにまとめられたランドスケープ計画について説明した。そのうえで、地域の方々にご案内いただいて、現地を歩いたのち、意見交換を行った。

第1回のテーマは「歩いて語る」である。ランドスケープ計画の事例紹介を踏まえて、現地を歩いて課題個所について語っていただいた。第2回のテーマは「語って描く」である。私たち作業チームからの「たたき台」案に対して、課題解決への視点から意見・アイデアを出し合い、将来方向を描いていただいた。第3回のテーマは「描いてまとめる」である。作業チームからの加筆修正案に対して、維持管理面からの意見・アイデアを出し合い、持続可能な環境管理と整備の方向性をまとめた。

■益子西（星の宮）地区

1回目は10月20日、2回目は12月15日、3回目は2月24日に開催した。

まずは地区内を見て回るということで、小埜先生と研究室から学生さん方もご参加いただいて、それから役場からも各ご担当の方々、それから文化財の専門委員の方にも加わっていただいた。地区内を歩き回りながら、場所ごとに少し立ち止まって、いろいろ解説も伺いながら意見交換を行った。意見交換の主な内容は次のとおりである。

地区全体

- ・散歩道の事例紹介にもあったように、環境をよくすれば人が集まってくる。
- ・益子町では、里山の風景を守っていきたい。
- ・太陽光発電のパネル整備が無秩序に増えそうで心配している。

琴平池

- ・かつては白鳥も飛来していたが、近年は全く来ていない。
- ・2014年までは周りが森だったが、民間の造成工事で様子が変わってしまった。
- ・草刈は年に数回、地元で行っているが、造成（中段）部分の繁茂はひどくなっている。池に土砂が堆積しており、浚渫は役場でやらしてもらわないと、地元では手に負

えない。

#### 浅間塚古墳（塚本専門員の解説）

- ・ 3～4世紀の前方後方墳で、首長クラスのものと考えられる。
- ・ 当時の人々が、小貝川沿いの微高地に住んでいたことを物語っている。
- ・ この時代の古墳では、墳丘の周りに壺を並べているものが多い・埴輪はない。

#### 古墳・ビオトープ

- ・ 小貝川沿いの風景が広がり、芳賀富士、雨巻山、遠くに筑波山も眺望できる。
- ・ 地域の環境に関心を持ってもらうためにビオトープを整備した。
- ・ 自然観察の場として、一体的に活用したい。フェンスは池と反対側に配置したい。

#### 弁天池

- ・ 路上駐車（休憩）が多かったので、車止めを設置している。
- ・ 南方に連なる水田は、今後圃場整備を予定している。
- ・ 池の周りのサクラは老木が多く樹形も乱れてきているものが多い。

#### 散策コースの設定について

- ・ 西谷の田んぼの東側の森を東西に抜ける道は私有地が多い。
- ・ むつみ荘前のサクラは立派であるが、敷地内への立ち入りは難しい。
- ・ 小学校には桜を100本植樹している。
- ・ 高校の東側のルートは設定しないほうが良い。
- ・ 散策コースは、世間遺産のスポットとマッチングさせたほうが良い。

#### ゴミ置き場について

- ・ 作り変えの時期に来ており、例えば木製にして森林贈与税の事業を活用することも考えられる。
- ・ カラス対策で、屋根や囲いは必ず必要である。
- ・ 不法投棄も多くなってきており、防犯カメラの設置も必要である。

#### サインの整備について

- ・ 益子らしい素材を活用したものが良い。
- ・ 立ち寄り拠点には、やはり案内サインがほしい。

#### ベンチ・休憩施設について

- ・ 琴平池・弁天池等、眺めのよいポイントにはベンチなど休憩できる場にしたい。
- ・ ベンチは既製品ではなく、みんなで協力して作るような手づくりでもよい。
- ・ 竹を切って使うことも考えられる。11月に切ると10年はもつ。

## ■生田目地区

1回目は12月5日、2回目は1月19日、3回目は3月23日に開催した。対象が前沢町有林なので、里山の会の皆さんと比較的長い距離を歩いて、眺望の話、植物の話、歴史の話等、多方面からの意見交換ができた。その主な内容は次のとおりである

里山の会の方々からのコメント

- ・散策路の山道は、子どもどころ放課後などによく遊んだ。
- ・今では藪に覆われて簡単に通れないところが多い。
- ・昨年Nabatame Mapを作成した。四季を通じて散策を楽しんでもらいたい。
- ・展望台を設置した。今後はツリーハウスなども工夫してみたい。
- ・生田目古墳群のほかにも弥生時代の遺跡や縄文時代の出土品がある。
- ・生田目古墳群の東側一帯の樹林は、公的な森林環境整備の事業を入れないと、地元の手作業では無理である。
- ・草刈は月に1回、みんなで約2時間行っている。
- ・展望の良い場所など、ベンチの設置個所を増やしたい。
- ・彼岸花、オオバエ、スイセン、菜の花、レンギョウなども植えてきた。
- ・先生方からの場所名の提案は、とてもいい。
- ・野鳥のための巣箱の設置なども取り組みたい。
- ・馬頭尊の周辺では、ヤマアジサイやヤマユリなどの花を増やしたい。
- ・植えた桜の生育が良くないところが多い。土壌が合わないことが要因かも。
- ・平地部で行っているコスモスは、来訪者も多く、とても喜ばれている。

学生さんたちからのコメント

- ・坂が急で歩きづらいところもあった。
- ・場所ごとに解説版など、どの時期にどんな花が咲くのか、わかると有難い。
- ・古墳や城跡など、歴史のことが学べてよかった。
- ・ぐるっと一回りするのに時間的にはちょうどよい。
- ・花粉症には、この時期は大変である。霧のように花粉が出ていた。
- ・寺子屋跡の近くの階段を、みんなで2時間ほどで作ったという話には驚いた。
- ・森の中に入っていくのは面白い。
- ・森を歩く時の「音」に注目するのも面白いのでは。

例えば、落ち葉を踏みしめる音等、都市の生活では感じられないものがある。

- ・杉が整然と並んだ道のところがとても魅力的だった。
- ・急坂を行き来するのは、昔の人は大変だったのではないか。
- ・ここからの富士山をぜひ見たい。
- ・どの時期にどんな花が咲くのか、季節に応じて実際に見てみたい。
- ・管理活動をされているときにも参加してみたい。
- ・研究室としてかかわり続けるようにしたい。

#### ■円道寺池周辺地区

第1回を1月19日、2回目を3月24日、3回目を今日の午後に行う。

毎回、「花の会」の皆さんの活動日にお邪魔している。花の会の活動は今年で11年目になるということで、季節を通じて楽しめるように整備を進められ、丁寧な維持管理活動が継続されている。

活動されてる状況も拝見しながらのワークショップなので、臨場感のある具体的な意見交換ができた。主な内容は、次のとおりである。

- ・何度来てもいい散歩道だと改めて感じる。
- ・よく手入れされていて心地いい。
- ・ベンチなどが欲しい。
- ・草刈などに追われ、手が回らなかった状況。  
学生さんたちから、ベンチスペースのデザイン案を提案してもらえたら有難い。
- ・歩いていて樹木の解説などのサイン表示があるといい。木札等。  
花を見に来た人たちをがっかりさせないようにしたい。
- ・歩いていて街と異なる空気感、温度の違う風がある。  
そのような詩人の感性で見るのが重要。
- ・学生さんたちのような都会の若者がかかわってくれるような体制になると、よりやりがいがある。また、SNSなどでの発信もあってうれしい。
- ・四季を通じた花暦と、管理の時期がわかる年間予定表があると、都会からも時期に応じて来れるのではないか。
- ・うまく情報発信して地元の人と来訪者とが管理活動を協働で行うことは素晴らしい。

- ・虫ホテルのように、休憩所を大学のプロジェクトに関連付けて協働でつくってみてはどうか。

## ■まとめ

ランドスケープ計画で設定されている①里山資源を生かす、②文化背景に取り組む、③生活環境を磨く、という三つの項目に沿って、各地区で展開していくと、より具体的に考え方が少し絞られてくるように思われる。

一つ目は、里山資源としては地域の個性を演出するということ。

地元の皆さんが、例えば「ここから富士山が見えるよ」といった眺望や、緑の風景との調和、それから歴史文化や水辺の生態環境のこと等、おすすめのポイントをたくさん挙げていただいて、それを巡る面白さが、地域づくりのカギとなることが見えてきた。益子の世間遺産は既に設定されていて各地にあるが、まだそれに上がってきていない、まさに地域の宝がたくさんあり、個性演出の対象が見えてきたことは、ワークショップの大きな成果であるといえる。

二つ目は文化背景。

ランドスケープ計画でスローロードやルーツリンクとして設定されている大きな幹のようなルートに対して、各地区で展開する回遊路が、ブドウの房のように連続してつながっていく構成が考えられる。1時間から2時間ぐらいで回れるぐらいのそういう距離感で、多様性を持った各地区に小さい回遊路がたくさん用意されて、やがて町域全体を結んでいく、そういうネットワークというか繋がりが形成できることが想定できるようになったことが、二つ目の成果である。

最後の3つ目は、生活環境について。

公共的な要素を改善していくデザイン検討を行っていきたい。ゴミ置き場の改善、ガードレールの改善、休憩スペースの整備、などが考えられる。場所によっては防災や防犯、安全対策を講じる必要もある。サインについては案内表示の機能だけでなく、注意喚起の表示が必要なところもある。場所によっては蜂とか蛇とかの自然環境に関する注意喚起も必要があるかもしれない。また、草刈り等、管理上の取り組みも今後は作業量が大きくなっていくことが分かってきた。こうしたことを地域の負担として捉えるのではなく、ワカモノやヨソモノも、この素晴らしい生活環境の維持向上に向けて、一緒に考えていく必要があることが明確になった。

引き続き令和5年度も、今後検討していく4地区の内容と整合を図りながら、町域全体のランドスケープの維持向上につながるよう、ワークショップを展開していきたい。報告は、以上です。

#### 【A委員】

先生方とかあるいは大学の学生さんたちに、大変よく対応していただいた。私はもう生まれてからずっと益子町に暮らしているが、知らない場所とか知らないことがたくさんあった。例えば、生田目地区の寺子屋のことなど。地元の私たちが全然知らなかったようなことを、本当によく見てくれて感謝している。あと、花のことなんかもたくさん取り上げてくれて、本当に皆さんボランティアのような形でやってくれて。せっかくこれだけできたんだから、何かこの町の町民もこういうことをもう少し知りたいなという人もいるかと思う。その辺のアピールがこれから必要になってくるんじゃないかと思う。

#### 【小嶋】

この今年度、各地区のワークショップで私も含め学生大勢と大変お世話になりました。また学生もこの4月から新しい学生も加わり、大学院の1年生が私の1期生の学生が、今度は大学院2年生となる。人数も結構増えてきて、研究室内でもどういったことをやろうかということのをこの4月から改めてまた話し合うことにしている。益子のこのランドスケープの計画を私の研究室の中ではしっかりやろうとそれを大学にもアピールしてそこから、もっともっと展開していくかっていうことを検討していく。今年度の徳永先生のコーディネートで、本当に具体的なまちづくりのテーマが見えてき始めてる。また4月からも、できる限り参加させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。ありがとうございました。

#### 【加藤委員長】

確かに若い学生さんとの交流というのは、すごくこちらも張りが出ますしこれからどんなことをしていくのかやはり新しいアイデア、私達の出てこないようなことを出されてすごく活動やその後に役に立つということでこれからもよろしくお願いたします。



**【A委員】**

益子町の少子高齢化が、思った以上に激しくなっている。  
小学校や幼稚園の園長とも話したが、みんなすごい危機感を持っている。  
今後課題ではあるが、ランドスケープ計画についても、後の影響も出てくると思われる。  
町の方でも、我々町民も一緒に考えていくべき課題である。

**【加藤委員長】**

はい、ありがとうございます。  
今後課題で、ランドスケープ計画についても、後の影響も出てくると思われるため、  
町の方でも、我々町民も一緒に考えていくべきですね。  
それでは令和5年度の事業計画を今後どうするかについて、事務局からご説明いただきたい。

(2) 令和5年度の益子町ランドスケープワークショップの実施予定

**【徳永】**

令和5年度の事業計画は、7地区のうち4地区を進めていく予定です。  
今該当していないところを中心にランドスケープワークショップを行っていきたいと  
考えています。  
1つは生田目地区の前沢町有林の取り組みと山本地区の町有林が繋がり、その場所での  
回遊性という形がとれると考える。ワークショップの役割が4年度でも活潑されていない  
地域にも何か新たな輪ができるように、4年度以外の4地区でお願いいたします。

**【事務局】**

事務局からも個別に4地区の方と相談する。場合によっては4年度と重なる部分もある  
がよろしくお願ひしたい。  
前沢町有林で、5月13日にウォーキングイベントを予定しております。  
そのお知らせ等は4月のお知らせ版下半期またホームページ等で一応掲載する予定で  
ございます。一般の方、参加者は16名の募集を予定しており来年度の予定は以上です。

**【B委員】**

ランドスケープ計画は7地区を対象に進めているのか、各地区にワークショップを3回でまとめるということか。

**【徳永】**

はい。

ワークショップ設定は3回ずつという予定ですが、回数限らず、むしろ先ほど共同の取り組みがちょっとずつ発展する方向に向くようにしたいと思います。

**【B委員】**

前沢町有林のヤマザクラがほとんどを育てなかったし、間伐もされていないように感じる。例えば小学生・中学生に桜の枝打ちとか間伐とか体験学習させるなど、環境整備を行うことで素晴らしいものになるのでは思うが、進んでないようなので考えてもらいたい。

**【小嶋】**

育ちがよくないヤマザクラがやっぱり目立ってきてこのまま枯れてしまうのか、維持できるのかも含めて一度、調査とまで言わなくても今後どうしていくのか決める時期と客観的には思う。やり方によって綺麗になる可能性も十分にあると思うので、環境課と相談し、ランドスケープや植物の専門家と調査を進める必要があればコラボレーションして、環境課だけでできるんだっていうのであればやっていただくなどの調整するのがいいのでは。

(3)意見交換

**【A委員】**

益子町には御館山があるが、昔、源義家が東北へ行く前に住んでたという屋敷、源義家が東北へ出る前に、みんなでお面をかぶって朝まで踊りを明かしたって小躍りなどの地元では知られているが、資料がないため認定させれていない場所や文化がある。また、その場所を整備すると、菜の花とか桜が見れて景色がよさそうなんです。現状それがされていないのもったない。

#### 【D委員】

展望台に繋ぐ駐車場をつくる計画と話し合いがあったが計画が変わってしまい、その後継続されないで終わってしまったため、何年前に話したじゃないっていう話をされる方もいると思う。そのため前にやった資料を残しておき、今回の計画をやっていきたいと言って、地域の方を集めればいいのかと思う。

また、今後いろんな計画づくりの話し合いをして整備をしていく。

だけど、いつまでもボランティアでやってくにはなかなかつらい。

何らかの地域に見返りがないと、管理だけをしてたくさんの地域外の方々が私有地に入ってしまうなど、困るっていう地域の方も中にはいる。

そういう人たちがやはり何らかの形でたくさんの人に来て、山本地区の良さをわかっていただいて、カフェ、飲食店などのいろんなものができるような形作りをしていかないと整備をして人が来てもらっても、次の世代に繋いでいけないと思う。

若い世代をいろんな形で関わってもらっている次の世代に繋いでいくような環境作りをし、整備をしても5年50年も続けられるよう形を作っていくといけないと思う。今度どういう形で管理をしていくかを全体で考えていただかないと地区の人たちだけやっておってもなかなか難しい。

#### 【加藤委員長】

はい、ありがとうございます。

確かに計画の主体が変わっても町としては同じですから丁寧に継続してみていかないとですね。例えば、各地元で一斉に整備してくださいじゃなくて、町としての関わりはどうなっているのかというと、定期的に見てもらっていくといいなと思いますね。

#### 【E委員】

4年度にやった益子地区や生田目地区や益子西地区は意見が出たり、地元の方との距離も近くなっていると思っているが、継続していくことの難しさがある。今回は小埜先生を筆頭に続いていたが、なくなるとどうなっちゃったんだろうみたいな感じで町民の立場としても、途切れてしまうと怖いなどは思う。計画がある間に動いて対応を見つけないながら考えていく必要がある。

例えば、均等ではなく、その地区にあった考えをしていくことで他の地域もちょっとずつ目、手がついてない場所とかそういうのに意識が行くようになるのかなと思う。

**【加藤委員長】**

そうですね。継続することも難しいけれども、大事なことなんでね。

地区の人の協力しながら、住みやすいとしても、楽しい益子町していかななくちゃいけないかなという気はします。

これからも町の方よろしくお願いします。

我々も頑張っていきますが、高齢化の問題出てくると思うのですが、そんなところも若い人たちも興味持っていて、参加できるようにしていかなければならない。先生方ありますか。

**【徳永】**

はい、ありがとうございます。

やっぱり地域の皆さんの状況に合わせてやっていくというと、ランドスケープ計画で今までに触れてなかったような課題もあると思う。

なので、また教えていただき、一緒に考えていくというのもあっていい。

ランドスケープ計画では、表層ものだけではなくて、環境そのものから入っていくようなところがあります。その点では目に見えてないようなものに対して、課題なども一緒に取り上げていくこともできると思う。

活動されてない地域も思いますので、例えば、自治会の定例の会議の中で、ランドスケープ計画のご相談する時間もとっていただく仕方もあると思う。

**【加藤委員長】**

長時間にわたりましてご意見ありがとうございました。

先生方には本当にこれからもよろしくお願ひしたいと思います。

4 閉会